

I. 年度計画・目標

1. 海洋スポーツの普及を目的に、関連公開講座、学長杯オープンヨットレースを開催する。
2. 地域振興を目的に、地域海洋スポーツ関連事業に協力する。
3. セーリング競技等における競技力向上に関する事業を開催する。
4. 協力者会議を開催し、年度を総括するとともに、海洋スポーツ研究第29号を発刊する。

II. 事業計画（各事業の主担当者名／実施期間）

1. 教育（授業に関するものを除く）プロジェクト

新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から社会情勢を考慮しつつ、適宜計画する。

(1) 指導者育成（主担当 中村）

自然体験、海洋スポーツに関連する資格取得講習会の機会を提供する。

(2) 近隣小学校の海洋スポーツ体験と大学生指導実習の合同開催を計画する（主担当 中村）

(3) 海洋スポーツの教育効果に関する調査を実施する（主担当 笹子・中村）

国立大隅青少年自然の家「海からのメッセージ」事業との協力体制を整え、児童・生徒に対する海洋スポーツの実施効果に関する調査等を実施する。

2. 研究プロジェクト

(1) 生涯スポーツとしてのSUP（スタンドアップパドルボード）の効果に関する研究

（主担当 中村／ 通年）

海洋スポーツ活動のうち、特にSUPを対象とし、生涯スポーツとしての普及振興を図るため、SUP運動の体力特性や健康増進効果を検討する。

(2) カヌースプリント競技・ボート競技の競技力向上に関するパフォーマンス研究

（主担当 中村／ 通年）

パフォーマンス向上のためのトレーニングメニューに関する生理学的、力学的観点からの見直しと変更を実施し、実施回数やトレーニング頻度を加味した効果的なトレーニングメニューの検討、または選手個人の実践効果を検討する。

(3) セーリング競技における基礎研究の推進（主担当 榮樂・笹子／通年）

セーリング競技（ヨット、ウインドサーフィン）におけるパフォーマンス向上のための情報収集（陸上および海上）を実施する。陸上においては、体力測定を実施、海上においては、パフォーマンス評価の指標となる項目の可視化を検討する。

3. 社会連携・社会貢献関係プロジェクト

新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から社会情勢を考慮しつつ、適宜計画する。場合によっては計画変更および中止もありうる。近隣海洋スポーツ施設との連携体制を継続し、状況に応じた事業を実施する。

(1) 学長杯オープンヨットレース

（主担当 榮樂・笹子・坂口・中村／令和5年8月27日（予定））

学長杯オープンヨットレースを開催し、地域の海洋スポーツの普及・進行を促進する。

(2) カノヤカップヨットレース大会協力

(主担当 榮樂・坂口・中村・笹子／令和5年8月26日(予定))

鹿屋海洋スポーツクラブが主催するヨットレースへの運営協力、およびレース終了後の講習会(実技指導等)を企画する。

(3) 公開講座(中村・榮樂・坂口・笹子)

①公開講座A:楽しいマリンスポーツ

(主担当 榮樂・笹子・中村・坂口／令和5年4月9日(日)～5月14日(日))

半日講座を計5回企画する。ヨットやカヌーを中心とし、経験の浅い者が、安全で楽しく継続した活動を行うために必要な知識と操船技術を学ぶことを目的とする。講座終了後、参加者自身でマリンスポーツを楽しめるようになることが理想で、参加者・応援者として活動が出来るような活動場所を推薦する。

②公開講座B:楽しいスキューバダイビング(初級者編)

(主担当 中村・榮樂・笹子・坂口／令和5年5月17日(水)～7月2日(日))

プール7回(水曜日10時～11時30分)、海1回(日曜日9時～16時)で、計8回の講座を企画する。安全に楽しくスキューバダイビングを実施するための知識と技術を習得することを目的とし、講座終了後、参加者自身でマリンスポーツを楽しめるようになることを目指す。

③公開講座C:少年少女楽しいマリンスポーツキャンプ

(主担当 榮樂・中村・笹子・坂口／令和5年7月25日(火)～27日(木))

安全に楽しく海浜活動・海洋スポーツ活動を行い、海洋スポーツの基礎技術の習得と磯観察等による環境学習を行う。また、集団活動、可能であれば2泊3日の宿泊を伴う集団生活を通して、仲間づくりや仲間とのコミュニケーションの取り方を体験する機会を提供する。

(4) マリンフェスタ in かのやへの協力

(主担当 中村・坂口・榮樂・笹子／令和5年7月中旬(未定))

マリンスポーツ部門におけるイベントの企画・実施・運営を担当する。主な種目は、ヨット、ウィンドサーフィン、カヌー、スタンドアップパドルボードの4種目であり、ヨット部、ウィンドサーフィン部、カヌー部、ボート部学生の協力を得る。

(5) 国立大隅青少年自然の家との事業協力(主担当 中村・笹子・坂口・榮樂／通年)

相互に、海洋スポーツ事業および研究事業における共同展開を図る。

4. その他

(1) 協力者会議の開催(主担当 中村・榮樂／令和5年12月4日予定)

現在のところテーマは未定。

(2) 卒業生の海洋スポーツ活動状況調査(主担当 笹子・榮樂・中村／通年)

卒業生の海洋スポーツ活動に関するかかわりの実態について調査を継続する。

(3) 競技スポーツにおける試合・合宿への協力

セーリング競技における競技力向上のための試合・合宿に協力する。

(4) 外部団体海洋スポーツ実習の受け入れ

業務に支障のない範囲で、教育団体を主とした外部団体の海洋スポーツ実習を受け入れる。その際、学外スポーツ実習の場として活用できることを原則条件とする。

Ⅲ. 予算計画（附属施設経費（海洋スポーツセンター経費）2,489 千円）

1. 教育プロジェクト 130 千円

区分	金額	算出内訳
人件費	30 千円	講師謝金（@6000 円×5 時間×1 名）
物件費	0 千円	備品費、消耗品費 等
その他	100 千円	講師旅費（鹿屋－東京：80,000 円×1 名、近県 20,000 円×1 名）

2. 社会連携・社会貢献プロジェクト 162 千円

区分	金額	算出内訳
人件費	103 千円	学長杯運営補助賃金（@860×6 時間×20 名）←学生バイト
物件費	59 千円	消耗品費 等
その他	0 千円	

3. その他 2,197 千円

区分	金額	算出内訳
人件費	24 千円	協力者会議謝金（@6,000 円×2 時間×2 名）
物件費	1,833 千円	燃料費、保守・修繕費、修繕関連消耗品、（1,063 千円） 印刷製本費（200 千円） その他管理運営費等 （複合機 180 千円、気象情報 330 千円、その他 60 千円）
その他	340 千円	協力者旅費（鹿屋－東京：80,000 円×2 名）（160 千円） 職員研修旅費（鹿屋－東京：80,000 円×1 回）（80 千円） 職員雑費（業務必要経費）100（千円）